

表 1 評価の枠組み

評価対象：ガーナ教育セクター		(目標体系図を活用)		評価対象期間：1998年度～2003年度上半期	
評価視点	評価項目	評価内容・指標	主な情報入手手段	主な情報入手先	
I. 目的	1 日本の上位政策との整合性	1-1 日本のODAの基本政策(ODA大綱、中期政策)と整合しているかを検証する。	ガーナ資料 (Vision2020、GPRS、統計他) 日本側資料 (政策協議文書、国別援助計画、ODA白書等) 各種文献 現地ヒアリング、拡大ドナー会議 他ドナー資料・ヒアリング 国内ヒアリング	外務省、JICA ガーナ政府 他ドナー 国内有識者、現地有識者 日本人専門家	
		1-2 日本のガーナに対する ODA 政策 (ガーナ国別援助方針、国別援助計画) との整合性を検証する。			
		1-3 成長のための基礎教育イニシアティブ (BEGIN) との整合性を検証する。			
	2 ガーナの開発政策との整合性	2-1 ガーナの国家開発計画 (Vision2020、GPRS) との整合性を検証する。			
		2-2 ガーナの教育セクターにおける開発計画 (fCUBE、ESP 等) との整合性を検証する。			
II. プロセス	1 策定過程の妥当性	1-1 案件策定における、背景、タイミング、案件間の相互の関係などから、ガーナ教育セクター協力の発展プロセスが適切であったかを検証する。	各種実績文書 国内ヒアリング 現地ヒアリング	ガーナ政府、郡教育事務所 在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所、日本人専門家 (帰国関係者含む)	
		1-2 計画策定過程における、ステークホルダー (国レベル、ガーナの日本人関係者、大学関係者、現場レベル) が適切であったかどうかを検証する。	各種実績文書 現地ヒアリング 国内ヒアリング 現地コンサルタントによるインパクト調査	外務省、JICA (帰国関係者含む) ガーナ政府、郡教育事務所 在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所、日本人専門家 (帰国関係者含む) 裨益者 (裨益校の校長・教員・父母・児童・生徒)	
		1-3 計画策定過程において、他ドナーとの対話はあったか、またそれは適切であったかどうかを検証する。	他ドナーヒアリング 現地ヒアリング 国内ヒアリング	他ドナー 在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所、日本人専門家 外務省、JICA (帰国関係者含む)	
	2 実施過程の妥当性	2-1 日本側の実施体制が適切であったかどうかを検証する。	各種実績文書 現地ヒアリング 国内ヒアリング	外務省、JICA (帰国関係者含む) ガーナ政府、郡教育事務所 在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所、日本人専門家	
		2-2 他ドナーとの連携があったか、また連携によるメリットについて検証する。	他ドナーヒアリング 現地ヒアリング 国内ヒアリング	他ドナー 在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所、日本人専門家 外務省、JICA (帰国関係者含む)	
	III. 結果	1 有効性	1-1 教育セクター全体の進捗状況を目指体系図における「マクロ指標」で、またセクター内における日本の協力による効果・貢献の度合いを「日本の貢献指標」で検証する。	各種レビュー報告書 拡大ドナー会議、現地ヒアリング 技プロ中間評価、現地コンサルタントによるインパクト調査、直接観察	ガーナ政府、在ガーナ日本大使館、JICA、他ドナー、 現地有識者 裨益者 (郡教育事務所、ポリテク、裨益校の校長・教員・父母・児童・生徒)
2 インパクト			2-1 ガーナ・日本両国の上位政策への影響があったかを確認する。	現地ヒアリング 国内ヒアリング	ガーナ政府、在ガーナ日本大使館、JICA ガーナ事務所
		2-2 ガーナ・日本両国の関係者への影響があったかを確認する。	現地ヒアリング 技プロ中間評価、現地コンサルタントによるインパクト調査、直接観察 国内ヒアリング	ガーナ政府、在ガーナ日本大使館、JICA、他ドナー、 現地有識者 裨益者 (郡教育事務所、ポリテク、裨益校の校長・教員・父母・児童・生徒)	
3 自立発展性		3-1 ガーナ教育セクターとしての今後の自立発展の可能性はあるか考察する。 課題は何か把握する。	各種レビュー報告書 現地ヒアリング 国内ヒアリング 直接観察	ガーナ政府、在ガーナ日本大使館、JICA、他ドナー、 郡教育事務所、現地有識者、現地専門家、	
		3-2 ガーナ教育セクターの自立発展への日本の貢献はあるか考察する。			